

《第9回飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録》

日付	平成29年1月21日(土)	15:00~16:50	晴れ	書記	浦田
出席者	委員	井上 峰夫(会長)、野澤 善一郎、村井 康祐(代理:飯島 長男)、鈴木 弘、柴田 実(監事代理)			
		守 正英、加瀬 功一(副会長)、椎名 英夫、平山 瑞子(監事)			
	匠瑛市役所	企画課長 太田 和利、まちづくり戦略室長 林 雅之			
	事務局	鈴木(九十九里ホーム) 西方、浦田(ミサワホーム)			
<発言者>	< 内容 >				
井上会長	<p>・開会挨拶</p> <p>お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。新しい年になりました。</p> <p>年が明けてまだまだ落ち着かない部分もありますが、協議会につきましても今日が第9回、3月の年度末にはこんな方向性が出た等、最終結論に至らないまでも、何らかの形の報告書をまとめていかないといけないと考えております。今日は、「サービス付き高齢者向け住宅」についておさらいし、ゆいまーる那須視察の報告、それらを踏まえた上での事業計画について進めていきたいと思っております。</p> <p>よろしく願い致します。</p>				
事務局	<p>配布資料：第9回飯倉駅前地区まちづくり協議会、事業計画について②、サービス付き高齢者住宅（東京都パンフ）</p> <p>1. サービス付高齢者向け住宅について P2~4</p> <p>・サービス付高齢者住宅(東京都パンフ)説明</p> <p>・サービス付高齢者向け住宅の登録制度の概要、サ高住の戸数、住戸面積の分布、参考事例④ゆいまーる那須</p> <p>2. 「ゆいまーる那須」視察(報告) P5~8</p> <p>・平成28年12月14日(水)参加11名。昼食・職員の説明後、施設見学。入居者ヒアリング。</p> <p>・配置、間取りの説明、写真紹介。</p> <p>3. 事業計画について P9~13</p> <p>・まちなか居住ゾーン・建物概要、交流ゾーン・建物概要</p> <p>・訪看ステーション、病児保育、食堂、サ高住居室(お試し居住)</p> <p>・地産スーパー、相談窓口、診療所、地域交流スペース、生涯学習施設、障がい者作業所</p> <p>4. 次回協議会日程について P15</p> <p>・2月18(土)午後3時~</p> <p>・視察についての感想等</p>				
A委員	<p>大変参考になった。印象に残ったことは、安全確認、安否確認ができていたこと。家屋のレイアウトが対面型で効率的だった。各種サークル・教室が充実していた。買い物は送迎バスでショッピングセンターを3箇所回るので良いと思った。自然に恵まれている印象である。</p>				
B委員	<p>入居者の方のお話を聴けたが、満足されている印象をうけた。色々な取組をされていて、ここに住んでいて飽きない印象を持った。運営が気になる。いままで3箇所のサ高住を見学したことがあるが、家賃とサポート費だけで運営しているケースは初めて。大変勉強になった。私は住みたいと思った。</p>				

C委員	配布資料によると、一括買取なのか。
B委員	家賃を15年間分、前払いする。最初に一括で払っているので月々の払いはそれほどの額ではない。
井上会長	資料P7に部屋タイプごとの金額が書いてある。サポート費が1人30,850円/月、2人で50,400円/月、あと共益費が8,000円/月かかるが、最初に多く払って、後は安心という形なのでは。
事務局	介護保険のサービスは別途のようである。
D委員	周囲が自然に囲まれて静かな場所だと思う。食堂があり昼食夕食をとるのに便利で、図書室、自由室など交流の場として利用できるのは大変参考になった。
E委員	自然が感じられる素晴らしい敷地であった。建物についても地元の木材を使っていて感心した。居住スペースも2LDKで、健康なうちから入居するサービス付き高齢者向けであるということで良いと思う。夏は涼しくて良いが冬は寒いのでは。
F会員	住宅の入り口に入居者の状態がわかる標示があって良かった。また中庭が住戸に囲まれており、いつも顔をあわせて会話ができるのも良い。敷地内にケアが必要なときに他に施設があってよかった。居住した後、地域住民と就労や文化活動等で交流するにはどのようにすればよいか。
井上会長	入居している方はみんなインテリな方、きちんとした考え方を持った方々である。匠瑳市に何が足りないかという、ゆいまーるには「那須」という別荘地のネームバリューがある。「匠瑳」と言っても認知ない。元気な方へのメニューを色々と考え、もし要介護になってもこんな体制がある、ちょっとした医療行為も提供できると言えるのでは。
C委員	「ゆいまーる那須」には現在、何名入居されているのか。
事務局	全部で70戸、2人の方もいるので100名以下ではないか。
G委員	5年ぐらいで介護が必要になった場合に、出て行ってくれとはならないのか。
事務局	出て行ってくれとはならない。残存期間分は返金。特養とデイサービスが隣にあるが、ゆいまーる那須とは別の施設で、サービスはそこで受けなくてはならないということもない。また優先的に入れるわけでもない。
H委員	地域との繋がりの話が出ていたが、施設内のお店も建物の中の人たちだけというのがもったいない。また、資料にあるハウス通貨とは何か。入居者が働いたらもらえる、施設内で使える通貨のことか。
井上会長	ハウス通貨とは、内部通貨、施設内で使える通貨のこと。あのお店にはちょっとした飲み物、食べ物が売っている。
C委員	経営主体が株式会社がやっているものと、社会福祉法人がやるのとは全く基盤が違う。

事務局	良い点も悪い点もあるし、取り入れられるもの、そうでないものについて、どうやって対応していくかの参考事例になったと思う。CCRCという、那須か金沢に見に行くことが多い。
	これを活かして計画に反映していければと思う。
	・事業計画についての質問等
G委員	病児保育について、この制度の中に、体調不良児（対応型）保育がある。看護師1名、保育士1名を置く規定になっている。子供が病気になったとき、親が仕事に行く前に送っていくのは大変なので実際はあまりないが、九十九里ホームは病院があるので良いのでは。
	園内で風邪など病気が出たときに、園に入れられないのでこちらに入れたいという需要は多いと思う。年間でお金は400万円くらいしか出ないので2人置くのは保育の方と協力しないと大変。体調不良時からまずやって、それから病児保育をやると良いのでは。
	交流ゾーンについての質問等
C委員	今回のまちづくりについて、市としてはどのような考えを持っているのか教えていただきたい。市としてはどんなことを盛り込んで欲しいのか。
匠瑳市	事業主体は九十九里ホームであり、市は支援できることは支援していくこととなる。「生涯活躍のまち」の手続は匠瑳市で地域再生計画というのを作り、その後、生涯活躍のまち形成事業計画を作る。地域再生計画を作らないと国からの交付金をもらえないので、市としてこの計画を作成する。そして、市として支援できることは支援していく。地域再生計画の内容は、基本的に、飯倉駅前地区のエリアで「生涯活躍のまち」を整備していこうというものになる。
A委員	地域再生計画の後の形成事業計画とは。
匠瑳市	まず、地域再生計画について国の認定を受けなければならない。認定を受けた後、次の段階として「生涯活躍のまち」形成事業計画を作る。具体的な細かい内容については事業主体の九十九里ホームと一緒に決めていくことになる。
E委員	行政の指導はないのか。
匠瑳市	指導ではないが、事業主体として九十九里ホームが中心になってやっていただいているので、九十九里ホームを「地域再生推進法人」として市が指定する。指定を受けた法人が「生涯活躍のまち」としてこの協議会の中で検討いただいている内容をどう具体化していくかを進めていく。
C委員	何が一番メインになっていくのか。
匠瑳市	「生涯活躍のまち」についてはまず高齢者の住まいをどう確保するか。市としては、東京に近いので、東京近郊の高齢者、50歳以上になるが元気なうちに移り住んでいただきたい。そして、活躍していただけるようにプログラムを考えていきたい。就労の部分もあるし、生涯学習の部分もあるし、地域との色々な交流・繋がり、こういった部分もプログラムの中でやっていこうということになる。行政としてやっていくことは一緒にやっていくが、事業そのものは、あくまで九十九里ホームが主体でやっていただく。
G委員	認定こども園と特養は決まっていたが、全体の目標は何年ぐらいなのか。

E委員	行政の問題について質問したいが、例えばグループホームの場合、指導はあっても支援はない。
	今回の場合も同じように支援しないのか。計画はすばらしいが、入所する方は自己資金で入居しなければならない。グループホームも15、16万円取られる。今回の場合も同じような形だと思うが、一番大事なのは行政からの支援。これからの問題だろうが、高齢者の立場としての意見である。
匠瑛市	「生涯活躍のまち」は国の制度である。これが出来た経緯は、東京を中心とした高齢者がこれから急激に増加し、その方々の受け皿となる住まいがないので確保していかないといけないということである。
	地方は急激に人口減少が起きており、高齢化も進んでいる。そこで地方に人を呼び込む、東京圏の高齢者を地方に移住することで、東京圏でできないサービスを地方で提供してもらう。移り住んでいただいた方は、老後という失礼ですが生涯学習等やりたい事、あるいはもっと働きたい等の希望を地方で叶えてもらうのが生涯活躍のまちである。
	先日、視察した「ゆいまーる那須」は従来のアメリカ型CCRCに近いものである。アメリカはもともとCCRCといえばリタイアメント、つまり定年退職した方々が作るコミュニティ、基本的に一つの町ができる。日本では「それを地域の方々と交流しながら新しい町を作っていきましょう」という「生涯活躍のまち」である。匠瑛市も人口減少が続いている。元気なうちに移住してきてもらい、キャリアを活かして、地域の方々と一緒にできるんじゃないか、このエリアを中心に整備できればやがて全国的に匠瑛市はこういうまちだと注目されてくるのではないか。まだまだ全国的に始まったばかりである。ここは九十九里ホームが計画を持っていたこともあり、全国でもトップランナー、つまり、先を走っている地域であると思う。我々も皆様の意見を聞きながら進めていきたい。特に飯倉周辺の皆様と、高齢者、50代以上の方をターゲットにしていく。また入居する際の資金の問題についても、この中で検討する。前提としては、厚生年金受給世帯の方が入れるような規定を標準としている。
C委員	アメリカの制度、CCRCが始まって4000人程度が最低単位。那須でも100人、1/40が日本のスタイルで、船橋、幕張にしてもうまくいかない。アメリカでは、介護になってもこの中で全部サービスを受ける。それでも下火になってきている。今回40人程度、外からお呼びする計画プラス特養、こども園作って、九十九里ホームさんの事業の中でやるのは良くわかる。匠瑛市の再生とか色々なことについてどれくらい活力が出るとか、もう少しインパクトが出ることはないのか。例えば、交流ゾーンに地域コミュニティにあるものをまとめて作るとか、市の集会所作るとか、共有スペースにもう少し市ができることが反映されるといいと思う。
匠瑛市	地域再生計画がないとまずこの事業が進められない。それと形成事業計画、これも市区町村が作成する。市全体の考え方として、ここに関して言うとお飯倉駅前地区、「生涯活躍のまち」のエリア型というが、市全体でなく、まずはこのエリアから、これを整備することで人口減少の歯止め、新たな雇用の場ができる。例えば、介護福祉関係、匠瑛市は介護福祉関係の就業者の比率が高い。そういう需要が増えてくればさらに雇用の場が増えてくる。雇用の創出に繋がれば、所得も上がる。移住してきた方が毎月生活されるので地元で消費された分お金が落ちてくる等、さまざまなメリットがある。そういったことを含めてこれから計画の中で皆様のご意見を頂きながら匠瑛市としては計画を作っていく。
C委員	農業で移住計画をやっていると思うが、今回と結びつくのか。
匠瑛市	今、匠瑛市の中で「匠瑛プロジェクト」というNPO法人が、休耕地を使って米を作って、自給自足に近い形で移住してくるという移住を進めていて、移住する方が増えている。年間、体験する方も含めてたくさんの方が匠瑛市まで足を運んでいただいている。移住定住は今後も重要な問題である。飯倉駅前地区では「生涯活躍のまち」で

